

GFLプログラムとは

群馬大学では、「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」であるグローバルフロンティアリーダーの育成に力を入れています。この一環として「**グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム**」を設置して、平成25年度から医学部と理工学部が連携する「**医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース**」（**医理工GFLコース**）を、平成27年度から教育学部と社会情報学部が連携する「**教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース**」（**教育・社情GFLコース**）を実施しています。

このプログラムに所属する学生（=GFL生）は、多種多様なプログラムに取り組むことで、英語コミュニケーション力・英語スキルを向上させたり、専門分野についてより深く学ぶなど、幅広い教養や国際的視野を育むとともに、早期に専門的な知識・技術等を習得することができます。また、GFL生には「グローバルな視点」を持って様々なことに挑戦してもらいたいという思いから、海外への短期留学や研修、国際ボランティアなどに参加することを推奨しています。



GFLプログラムの養成する人材像

目的

国際社会で活躍する独創的トップリーダーの育成
日本語能力・国際理解を含む幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の習得
海外留学を経験し広い視野を身につけた人材を育成

◆ 教育学部

学校教育の担い手として、国際的な視点から日本の教育を捉え、広い視野を持って活躍する人材の養成を目的としています。各学年8名程度を選抜します。

◆ 社会情報学部

社会情報学部の学際性を生かし、世界に学び、それを地域に展開する能力だけでなく、地域の中に学び、それをグローバルに展開する能力を持つ人材の養成を目的とした「グローバル教育」を行います。各学年10名程度を選抜します。

◆ 医学部医学科

医師、医学研究者又は医療行政担当者として、国際的視野を持ち、広く国際社会に貢献し得る人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。

◆ 医学部保健学科

保健医療の担い手として、グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材の養成を目的としています。各学年4名程度を選抜します。

◆ 理工学部

理工学分野において、新しい領域を開拓する創造的プロジェクトリーダーとして、諸外国の技術者・研究者と専門分野に関して意思疎通を図りながら、協力して活躍できる能力を身に付けた人材の養成を目的としています。各学年16名程度を選抜します。

GFLプログラムの構成コース

先述のとおり、GFLプログラムには教育学部と社会情報学部が連携する「教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」（教育・社情GFLコース）と、医学部と理工学部が連携する「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」（医理工GFLコース）があります。

コースは分かれますが、この2コースで連携しながら行う活動も多く、その中で他学部・他学科の友人たちと切磋琢磨し合い、多くの刺激を受けることができるのもGFLプログラムの魅力の1つです。

教育・社情GFLコース

教育学部	8名
社会情報学部	10名

連携



医理工GFLコース

医学部医学科	4名
医学部保健学科	4名
理工学部	16名

GFLプログラムの活動について

～ 全学部GFL共通プログラム ～

グローバル交流セミナー・サマーセミナー



全学部のGFL1～2年生が集結して合宿研修を行います。群馬の大自然に囲まれながら、学部や学年を超えて、GFL生同士の交流を深めることができます。

また、外国人留学生や大学院生などを招いて、英語での講演を聴いたり、英語で交流するなど、英会話コミュニケーション力を養う機会も用意されています。

～ 全学部GFL共通プログラム ～

外国人教員による特別プログラム



外国人教員より英語スキル向上を目的としたGFL生限定の特別英語講義を受けることができます。英語スキル・英会話コミュニケーション力の向上だけに留まらず、グループワークなどによるプレゼンテーションスキルの向上や幅広い国際的視野を養います。

これまでの活動例

Global Awareness : Exploring Culture and Society

専任英語教員による英語・文化の特別講義

インテンシブイングリッシュ

ネイティブ英語講師による英会話スキル、プレゼン力向上のための集中講義

GUGL English Café

ネイティブ外国人講師や留学生が講師役となって、自由なテーマで英会話ができる場

※本学大学教育センター・国際センター主催プログラム

特別講演会



自分たちの興味のある分野やテーマについて一から講演会を企画するもので、関係教員と相談しながら講演者を探し、交渉が進んだ後も学生自ら講演者と直接連絡を取り合って、日時や会場の調整、広報活動、司会進行などの実施に向けた準備を行います。

自分たちの興味・関心のある分野についていち早く情報収集できる機会を得られるとともに、自分たちの力で企画を立案し、遂行していくノウハウも養うことができます。

※この「特別講演会」は、平成29年度まで実施していた「トップリーダー講演会」「先端研究紹介講座」を統合し、より包括的に企画・実施できるようにしました。

これまでの活動例

講演タイトル	講師
これから望まれるリーダー像	前橋商工会議所 会頭 曾我 孝之 氏
「心を届ける」新聞づくり	(株)上毛新聞社 相談役 高橋 康三 氏
私の「考えるヒント」	(株)群馬銀行 代表取締役会長 四方 浩 氏
リーダーを探して～シェイクスピア今昔物語～	群馬大学副学長 末松 美知子 教授
金融経済から見た日本と世界の動き	(株)群馬銀行 代表取締役頭取 齋藤 一雄 氏
リーダーの条件～危機における対応～	群馬大学医学部附属病院長 田村 遵一 教授
いま、あなたの隣にいる人を大切に	東京都 北区議会議員 斉藤 りえ 氏
世界遺産のつくりかた	群馬県立女子大学 群馬学センター 松浦 利隆 教授
世界に羽ばたけ	ハワイ大学医学部医学部長付顧問 群馬大学未来先端研究機構 蒲 章則 教授
FLCを経験し、社会人になった今だから伝えたいこと	(株)荏原製作所 精密・電子事業カンパニー 技術統括部 基盤技術推進課 半田 直廉 氏
アジアでの医療を通して考える国際医療とは	特定非営利法人ジャパンハート 看護師 武内 三恵 氏
火山を透視する	東京大学地震研究所・高エネルギー素粒子地球物理学 研究センター 田中 宏幸 教授
アフリカ・スーダンでの地域医療における保険システム構築への挑戦	認定NPO法人コシナンテス理事長 川原 尚行 氏
セルロースナノファイバー ～新規バイオ系ナノ材料の基礎と応用展開～	東京大学大学院農学生命科学研究科 磯貝 明 教授
研究者から見た自動車の自動運転	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 大前 学 教授
判断力、機能力、チーム力で命を救え！ ～ドクターヘリ・カー、災害医療の経験から～	前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科 副部長 町田 浩志 氏
先端研究紹介講座	全日本レスリングチームコーチ、日本体育大学アスレティックデパートメント専任コーチ 松本 隆太郎 氏

※講師の所属等は当時のものになります。

留学生シンポジウム



教育学部・社会情報学部が主催する留学生シンポジウムに、学部問わずGFL生は特別に参加させていただいています。様々な国から本学に学びに来ている留学生たちと交流を深め、互いの文化や社会などについて学びます。

専門紹介講座



GFL生向けの特別講座として、本学の4学部からそれぞれ教員1名が講師役を務め、専門とする分野について基礎的な部分から紹介します。

4学部にわたって設置しているGFLプログラムの強みを活かした特別講座と言えます。



授業の履修

教育・社情GFLコースでは、通常授業科目の中からいくつか選択必修の授業が課せられます。その中で、GFL生限定として他学部の科目（教育学部GFL生ならば社会情報学部の、社会情報学部の学生なら教育学部の科目）を履修することもできます。

～ その他 ～

自主活動

学生たちが自由な発想で考え、自ら企画してプロジェクトを立ち上げ、運営・実施していきます。関係教職員が学生たちの活動を随時サポートしますし、場合によっては経済的支援を受けられる可能性もあります。



ハロウィンの歌とゲーム～英語教育への活用や英会話力の向上～



群桐祭・テクノドリームツアー

～ その他 ～

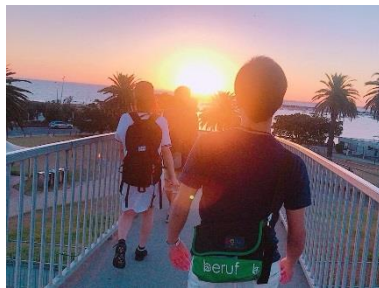
国際交流

GFLプログラムに限らず、大学内外で企画されている国際交流活動に積極的に参加しています。



海外留学

GFL生限定のオーストラリア短期留学プログラムを用意しています。平成26年度から累計で82名が参加しました。英語クラス受講による英会話コミュニケーション力の向上は勿論のこと、GFL生のためだけのプロジェクトワークを用意しており、現地大学の研究施設等の見学、小学校訪問ボランティア、ラジオ収録体験など、多岐にわたる学習プログラムとなっています。また、この短期留学プログラムでは、特別に大学から費用援助が予定されています。



GFL生は海外への短期留学や研修、国際ボランティアなどに参加することが推奨されていることから、上述のようなGFL企画短期留学プログラムに限らず、学内外で企画されている様々なプログラムに参加しています。すでに全体の**約80%**のGFL生が短期留学、海外研修、国際ボランティアなどに参加しており、各学年において半数以上のGFL生が留学等を経験していることとなります。中にはプログラムや訪問先を変えて何度も留学等に挑戦しているツワモノも！

アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアといった英語圏から、中国、東南アジア、南米、北欧など、様々な方面への留学・海外研修等に参加しています。



これまでの留学等実績

地域	訪問先
北米	スタンフォード大学（アメリカ）、ミズーリ州立大学（アメリカ）、サンディエゴ州立大学（アメリカ）、オレゴン健康科学大学（アメリカ）、モアヘッド州立大学（アメリカ）、アダムス州立大学（アメリカ）、ワシントンD.C.、ニューヨーク、モンタナ州グレイシャー国立公園（アメリカ）、マギル大学（カナダ）、カナダ
ヨーロッパ	オックスフォード大学（イギリス）、キール大学（イギリス）、レスター大学（イギリス）、リュブリャナ大学（スロベニア）、ブリュージュ大学（フランス）、フランス、HISPANIA ESTUSIO 2（スペイン）、フィレンツェ大学（イタリア）
オーストラリア	マッコリー大学、ディーキン大学、グリフィス大学
東南アジア	パジャジャラン大学（インドネシア）、モナッシュ大学（マレーシア）、マラ技術大学トレンガヌ校（マレーシア）、モンクット王立工科大学トンブリー校（タイ）、泰日工業大学（タイ）、メータオ・クリニック（タイ）、Bagu JIC / 語学学校（フィリピン）、フィリピン・セブ島、カンボジア、インドネシア
東アジア	モンゴル国立医科学大学（モンゴル）、台北教育大学（台湾）、東海大学（台湾）、建国大学（韓国）、延世大学（韓国）、ソウル科学技術大学校（韓国）、ソウル教育大学校（韓国）、廈門大学（中国）、大連工業大学（中国）、大連理工大学（中国）、瀋陽化工大学（中国）、北京大学（中国）

※直近の実績を記載しましたが、この他にも留学等に参加しています。

～ 参考 ～



Australia Study Abroad Program

語学研修+ホームステイ or 学内寮+プロジェクトワーク

期間（予定）：2019年2月～2019年3月 [約4週間]

参加費用（予定）：約50万円～（1AU\$=90円で計算）

※返済不要の奨学金及び奨励金を一部支給予定！！

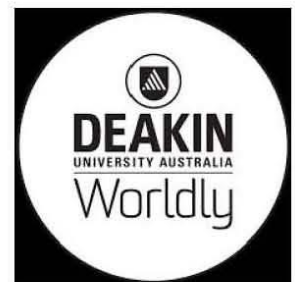
帰国後は留学フェアなどの国際交流活動で活躍してもらいます

募集人数（予定）：GFL生の中から20名

(応募多数の場合、別途選抜を行います)

留学先：ディーキン大学（豪州メルボルン）

世界で最も住みやすい都市ランキング1位！↑



プログラム内容（予定）：英語学習&施設見学&プロジェクトワーク等

1～3 週目 … レベル別に分かれて多国籍クラスでの英語学習（1日5時間）

4 週目 … GFLスペシャルプログラム（施設見学を含むプロジェクトワーク等）

詳細な情報は春の留学フェアにて！！

問合せ先：学務部教務課（荒牧キャンパスGA棟1階③番窓口）

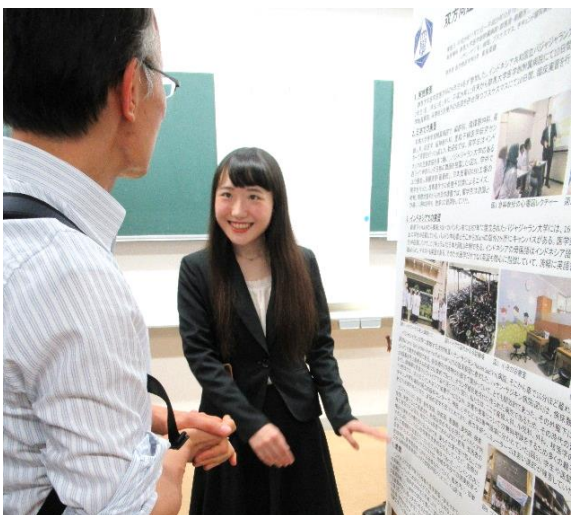
027-220-7132 gfl-admin@ml.gunma-u.ac.jp

2018/03



成果報告会

1年間のGFLプログラムの活動や、GFL生たちが体験した活動などについて、報告発表を行います。GFL関係者だけではなく、群馬大学の学生や教職員のほか、高校の先生や高校生の皆さんにもご案内して、多くの方にご参加いただいています。**GFLプログラムについて現役GFL生から話を聞ける機会**にもなりますので、ご興味があれば是非ともご参加ください！（毎年度5月下旬開催）



GFLプログラムの特色

- GFL生だけが自由に利用できる自習室「**GFL室**」を荒牧キャンパス・桐生キャンパスに用意しています。
- GFLプログラムにおける活動のほか、学業や大学生活等も含め、**関係教職員がGFL生の相談に対応しサポートしていく体制**が整っています。
- **GFL生の企画する自主活動を支援**しています。企画から実施まで学生たちの手で完遂できるよう、関係教職員がサポート役に回り、適宜アドバイスなどをしていきます。
- 意欲的にGFL活動に取り組む**優秀なGFL生を対象に後期の授業料を免除**します。対象者は厳正に審査を行い決定します。
- GFL企画の留学プログラムに参加するGFL生に対して、**留学費用の一部を支援するため奨励金を支給**しています（返済不要）。金額はプログラムによって異なりますが、経済的な負担を少しでも軽減することを目的としています。
- 全てのGFLプログラムに取り組んできた証として、卒業時に「**GFL修了証**」を授与します。また、理工学部では優秀な活動成績を修めたGFL生に対して「**GFL奨励賞**」を授与しています。

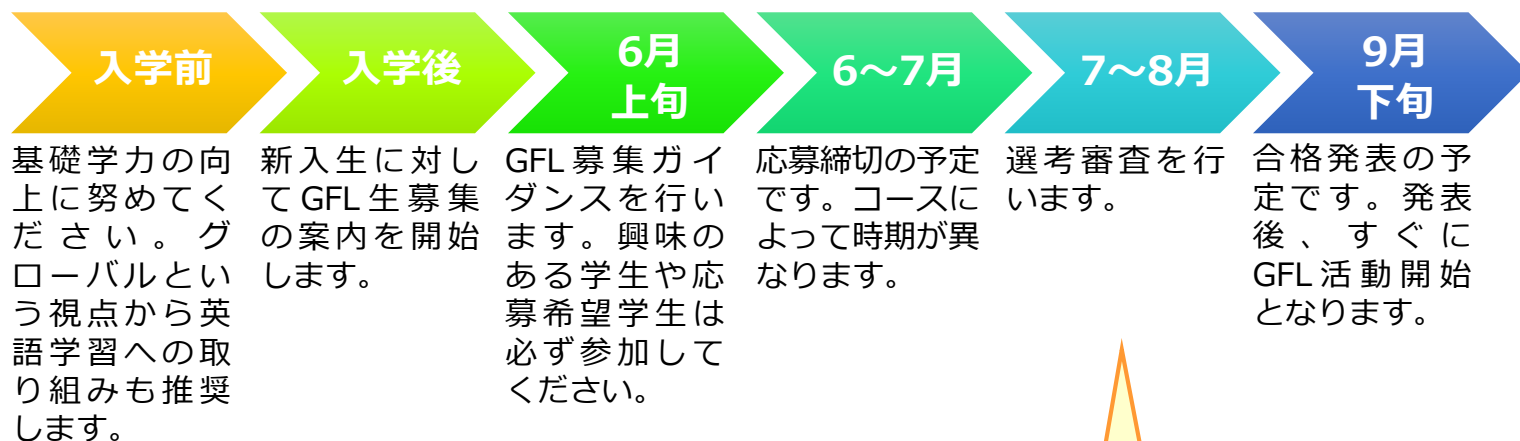


GFL修了生の進路状況

現状で医学部保健学科、理工学部においてGFLプログラムを修了した学生（=GFL修了生）がいます。医学部保健学科ではほとんどが病院へ就職し、医療現場で活躍しています。理工学部では全体の約85%が大学院へ進学し、より深いテーマで研究活動に取り組んでいます。



教育・社情GFLコース / 医理工GFLコースに入るには



選考審査方法

入試成績（センター試験、本学個別入学試験）、英語試験成績（プレイスメントテスト、TOEIC、TOEFLなど）、前期講義の成績、面接などの総合評価で選抜する予定

※審査方法は**学部・学科によって異なります**。

※TOEIC/TOEFLの成績スコアを求める場合は、以前受験した際のスコアシートのコピーを提出するほか、本学において7月頃に実施されるTOEIC-IPテストもしくはTOEFL-ITPテストを受験することもできます（入学後に案内が出る予定です）。



推薦入試において「GFL特別枠」を導入します！

社会情報学部および理工学部において、平成31年度推薦入試（平成30年度実施）より「GFL特別枠」を導入します。「GFL特別枠」で合格すれば、通常より半年ほど早く、入学時からGFL生として活動に参加できます。詳しくは本学ホームページの「入試案内」ページに2018年9月掲載予定の平成31年度推薦入試学生募集要項にてご確認ください。

平成31年度推薦入試は

社会情報学部：平成30年11月17日(土)

理工学部：平成30年11月21日(水)

に実施します！

本学HP入試案内ページ

<http://www.gunma-u.ac.jp/admission>

◆ 平成31年度群馬大学推薦入試におけるGFL特別枠の導入について（概要） ◆

社会情報学部

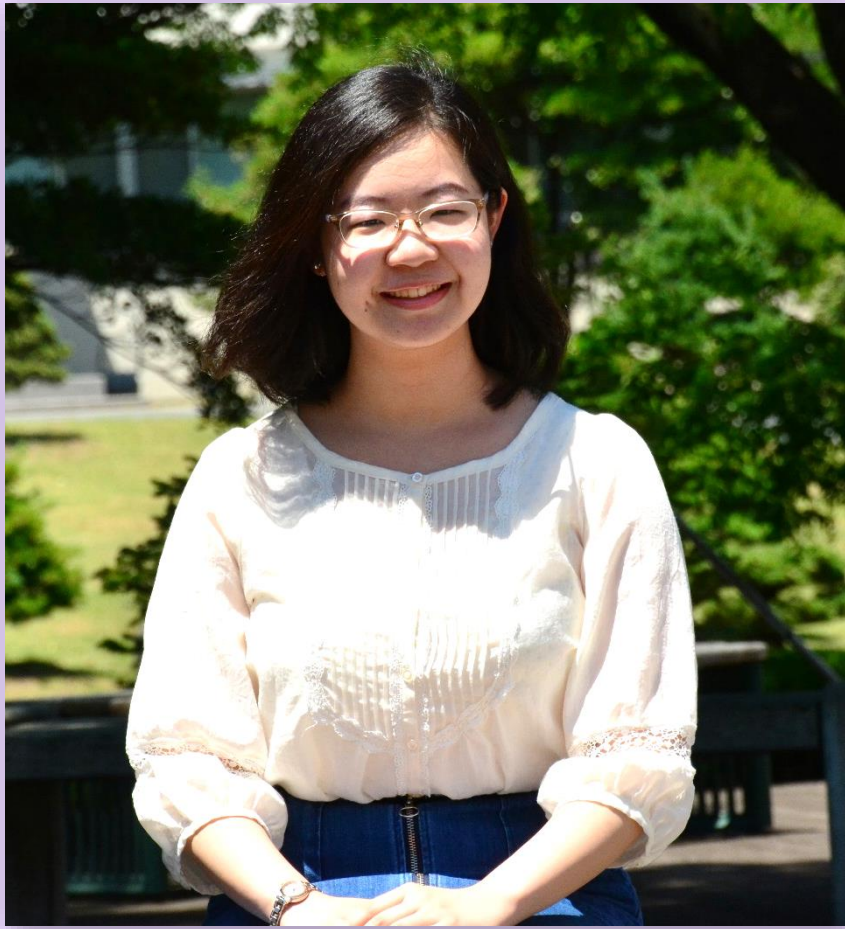
理工学部

募集人員	推薦入試募集人員28名のうち、GFL特別枠とデータ解析特別枠をそれぞれ若干名とする。
出願要件	<p>1. GFL特別枠 一般枠の「調査書の学習成績全体の評定平均値が4.0以上の者」という出願条件の他に、以下の①②を加えることとする。 ①「学習成績概評がB（4.2～3.5）以上で、英語の評定平均値が4.3以上の者」も可とする。 ② ただし、上記①の「英語の評定平均値が4.3以上」の代わりに、次の i～iv のいずれかの取得者も可とする。 i. 実用英語技能検定（英検）：2級以上 ii. TOEIC Listening & Reading Test：550点以上（団体向けのTOEIC-IPを含む） iii. TOEFL-iBT：42点以上 iv. GTEC for STUDENTS：675点以上（L&R&W）</p> <p>※出願する際に、一般枠の志望理由書に加えて「GFL特別枠志望理由書（A4用紙1枚）」の提出が必要。</p> <p>2. データ解析特別枠 一般枠の「調査書の学習成績全体の評定平均値が4.0以上の者」という出願条件の他に、以下の①②を加えることとする。 ①「学習成績概評がB（4.2～3.5）以上で、数学の評定平均値が4.3以上の者」も可とする。 ② ただし上記①の「数学の評定平均値が4.3以上」の代わりに、次の i～iii のいずれかの取得者も可とする。 i. 実用数学技能検定：準1級以上 ii. 統計検定：3級以上 iii. 情報処理技術者試験（ITパスポート以上）</p> <p>※出願する際に、一般枠の志望理由書に加えて「データ解析特別枠志望理由書（A4用紙1枚）」を提出させる。</p>
選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文と面接を課し、特別枠としての可否を総合的に判断する。 ・特別枠で合格しなかった受験者は、一般枠の出願要件を満たしている場合に限り、一般枠の志願者に加えて合否判定を行う。 ・特別枠の面接は一般枠の受験者よりも延長して行う。
入学後の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・GFL特別枠での合格者は、本学の「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者となるとともに、1年次前期からGFLコースに所属し、短期海外研修へ参加するものとする。 ・データ解析特別枠での合格者は、本学の「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者となるとともに、1年次前期からデータ解析プログラムの活動に参加するものとする。

募集人員	推薦入試募集人員（化学・生物化学科：60名、機械知能システム理工学科：33名、環境創生理工学科：28名、電子情報理工学科：35名）のうち、各学科とも若干名とする。
出願要件	一般枠の出願要件と同じ（出身学校における成績及び人物が優れている者） ※出願書類として、一般枠の出願書類に加えて、以下を提出すること。 ・GFL特別枠志望理由書（A4用紙2枚程度） ・英語外部検定試験の成績（GTEC CBT、GTEC for STUDENTS、TOEFL-PBT、TOEFL-iBT、TOEIC Listening & Reading Test、英検、IELTS、TEAP）のうち1つ以上
選抜方法	一般枠の選抜方法（(1)出願書類、(2)面接、(3)小論文(化学・生物化学科のみ)）に、GFL特別枠志望理由書、英語外部検定試験の成績を加えて総合的に判定する。 推薦入試の実施内容（面接・小論文(化学・生物化学科のみ)）は一般枠と同じにする。ただし、面接試験ではGFL特別枠志望理由、入学後にやりたいGFL活動などを追加質問し、GFL生として相応しいかの判定材料にする。 出願時に希望すれば、推薦入試（GFL特別枠）で合格しなかった場合は、一般枠で合格できる可能性があるものとするので、一般枠の志願者と合わせて合否判定を行う。
入学後の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・GFL特別枠での合格者は、本学の「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者となるとともに、1年次前期からGFLコースに所属し、短期海外研修へ参加するものとする。

※上表には社会情報学部にて実施する「データ解析特別枠」についても説明しています。

GFLで目標の実現を！



教育学部英語専攻 堀越 日南子

GFL2016年度生 (群馬県立前橋女子高等学校出身)

GFLで最も印象的だった活動は、オーストラリアへの1か月間の留学を経験したことです。私は大学生活中に長期留学をすることが目標で、そのためのステップアップとして、この短期留学に参加しました。留学では、異文化の中で生活する楽しさを実感すると同時に、自身の英語力不足も痛感し、長期留学を実現するための原動力となる経験をすることができました。そしてこの経験が現在では実を結び、今後アメリカに1年間の交換留学をすることが決まっています。GFLでは他にも様々な活動や行事を通して、熱意に溢れる仲間から刺激を受けながら、自分自身を成長させることができます。ぜひGFLのメンバーとなり、一緒にGlobal Frontier Leaderを目指しましょう！

自分の可能性を広げられる場所



社会情報学部社会情報学科 岡部 大樹

GFL2017年度生 (群馬県立高崎高等学校出身)

「周りの人と違う経験をしてみたい。」これがGFLに志願した最初の理由でした。当時、自分にはまだやりたいことが定まっておらず、不安な気持ちがありました。「やりたいことがない分、いろいろなことを経験しなくちゃ。」そう思っていたところに見つけたのがGFLでした。GFLでは社会のリーダーになるための講義や様々な分野の最先端を学べる講義、さらにはGFL生専用の英語の授業や留学があり、GFL生だからこそ得られた経験がたくさんあり、他の学生に比べて大きく成長できました。時間にある程度ゆとりのある学生だからこそ海外に行くべきです。海外に行かずに後悔している人はたくさんいますが、海外に行って後悔している人を私は見たことがありません。高校生の皆さん、ぜひGFLに入ってください。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

共に挑戦し、苦戦し、成長できたGFLの仲間



医学部医学科 寺島 里佳

GFL2015年度生 (渋谷教育学園幕張高等学校 (千葉県) 出身)

GFLに入ったおかげで大学の講義では学べないような、リーダーシップやグローバルな視野を身につけることができ、良かったです。留学をしたときは他国の状況を知るだけでなく、自国の現状についても客観的に考え直すことができ、新たな発見がありました。

私がGFLに入って一番良かったと思うのは自身の学部だけではなく他学部にも同じようにグローバルな視野をもった優秀な仲間ができたことです。私たちは一緒に勉強をし、プロジェクトを企画し、成長してきました。GFLでできた友達や仲間、このネットワークは卒業後も長く続くと思います。リーダーシップやグローバルな視野を身につけたい方はGFLに入り、仲間とともに切磋琢磨するのはいかがでしょうか。

GFL生の特権

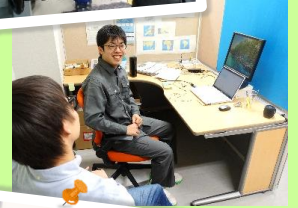
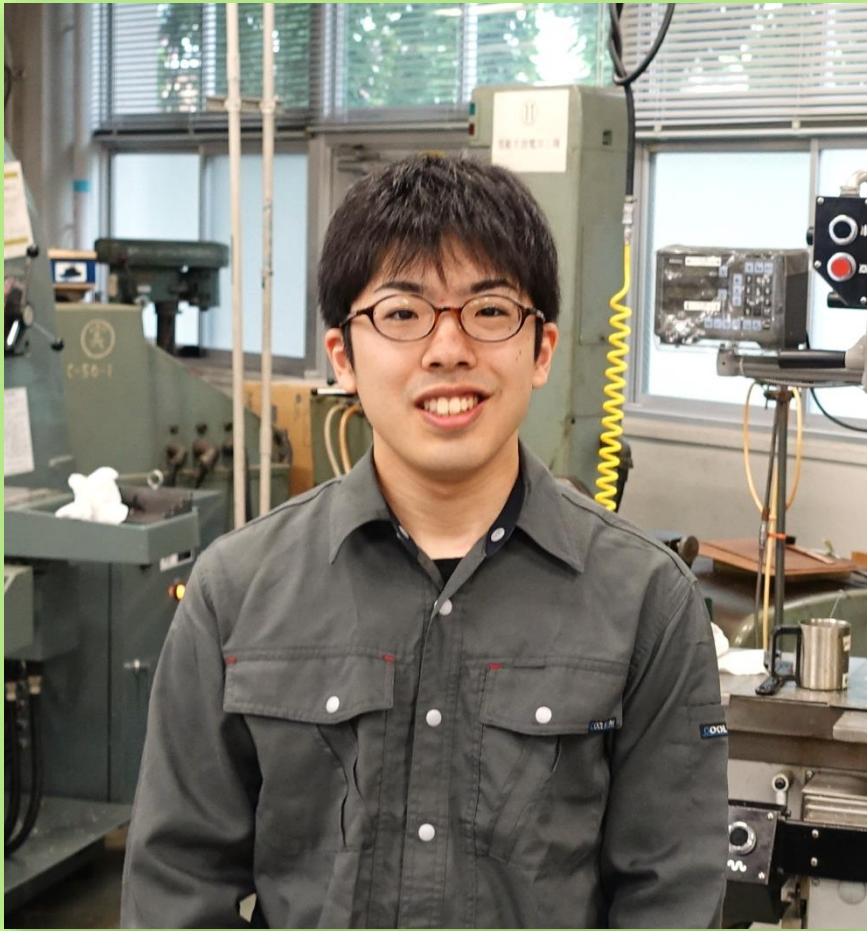


医学部保健学科作業療法学専攻 品田 恵

GFL2015年度生 (遺愛女子高等学校 (北海道) 出身)

GFLで経験したことで、私が特に良かったと思うことは次の二つです。一つ目は先端研究紹介講座や企業訪問&先輩ゼミです。様々な分野で活躍している方を招いたり、企業訪問することを通し、自分の専門ではない分野について学ぶ機会があり、新たな分野に興味を持ったり、自身の視野を広げることができました。二つ目は、インテンシブイングリッシュです。様々なことを行いましたが、その中でも英語で臨床での面接場面をロールプレイしたことが印象的です。医療英語を学ぶだけでなく、留学生から日本と外国の医療制度の相違や日本での病院受診時に不安なこと困ること等も聞くことができ、将来病院で働く際に活かしていきたいと思います。他にも様々な経験ができます。ぜひGFLに入ってみてください！

視野を広げよう



理工学部機械知能システム理工学科 半田 圭佑

GFL2015年度生 (新島学園高等学校 (群馬県) 出身)

文系、理系、「～専攻」という言葉は学問的背景を示すのに便利なものですが、物事の理解や問題の解決のためにはこういった枠に囚われないことが近道です。

GFLには視野を広げられる四つの特徴があります。一つ目は、あらゆる分野の学生がGFLに参加していることです。この人脈は、学生時代だけではなく将来的な資産になると思います。二つ目は、自主企画の講演会や企業訪問を通してさまざまな分野の最先端に触れることです。三つ目は、海外留学のしやすい環境が用意されていることです。そして、四つ目は通常よりも早く研究室に所属して専門分野を深めることができることです。

このような、視野を広げられる環境が用意されていることがGFLの最大の魅力です。



GFLについて質問などあれば
いつでも問合せ窓口までご連絡ください

群馬大学GFL担当

E-mail : gfl-admin@ml.gunma-u.ac.jp

TEL : 027-220-7132 (荒牧キャンパス)

GFL紹介WEBページ : <http://gfl.jimu.gunma-u.ac.jp/>